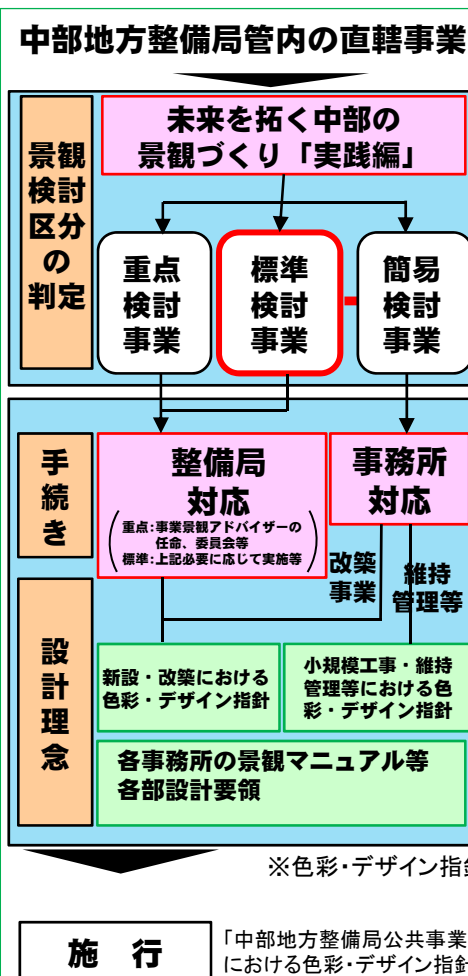


富士砂防事務所景観研究会 開催経緯

- 富士砂防事務所が実施する砂防事業の景観づくりに関して広くアドバイスを頂くことを目的に、平成20年2月27日に富士砂防事務所景観研究会を設立
- 平成30年度からは、火山噴火に起因する土砂災害対策を実施し、大型の施設を中心に整備を行っていくことから、富士砂防事務所景観検討における留意点(案)を作成することを目的に開催

富士砂防事務所管内砂防事業の景観検討における留意点(案) 概要



本留意点は、「標準検討事業」を対象に、検討段階別の景観検討の留意点についてまとめた。

例:【堰堤】各段階における配慮レベルごとの景観整備の留意点

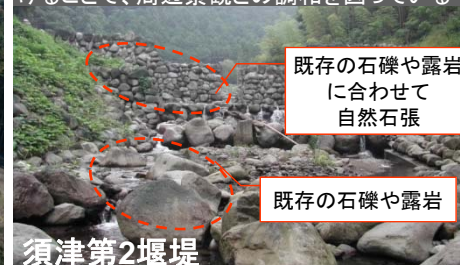
内容	段階						配慮レベルごとの留意点	
	調査	計画	設計 予備	設計 詳細	施工	管理	標準検討事業(基本の配慮)	標準検討事業(追加の配慮)
配置	▶						✓ 防災機能上可能な範囲で、できるだけ人目に触れない場所に配置する。	
規模	▶▶						✓ 地形改変を抑制するために、切盛りによる土工量を出来るだけ軽減する。	
形状	▶▶▶						✓ 地形改変を抑制するために、堅固な現地盤を活用する。	✓ コンクリート壁による圧迫感を軽減し、周辺環境に調和するように盛土を施す。
材料		▶▶▶					✓ 化粧型枠等を使用する。 ✓ 埋戻し/盛土材料に現地発生土を用いる。	✓ 周辺の地質を考慮した石張・石積とする。
色彩			▶▶▶				✓ 周辺景観に調和した色を施す。 ✓ 低彩度色を施す。	✓ 景観色(その地域に長くあるもの・蓄積されてきたものの色彩。風土色)を施す。
植栽				▶▶▶			✓ 現地在来種を用いた植生基材吹付けをする。 ✓ 埋戻しの表土部に現地発生材を用いる。	✓ 在来植生に配慮した樹種を用い、配置や樹高等をバランス良く植栽する。

【参考】景観配慮の事例

コンクリートによる圧迫感を低減し、周辺環境への調和を図っている



工事で発生する石礫や露岩を堰堤に貼り付けることで、周辺景観との調和を図っている



第1回富士砂防事務所景観研究会
日時:平成31年2月7日(木) 14時50分~
場所:山梨県富士山科学研究所 会議室

第2回富士砂防事務所景観研究会
日時:平成31年3月22日(金) 13時30分~
場所:富士砂防事務所 会議室



- ・環境省富士箱根伊豆国立公園管理事務所 事務所長
- ・静岡県交通基盤部都市局景観まちづくり課 課長
- ・山梨大学 地域未来創造センター センター長
- ・山梨県 県土整備部県土整備総務課 景観づくり推進室 室長
- ・国土交通省 中部地方整備局 富士砂防事務所 事務所長
- ・東海大学 海洋学部環境社会学科 教授